

平成21年度中間評価結果（平成21年12月）

[研究開発課題名] 超小型汎用コミュニケーション端末のための基盤技術の研究開発

[委託機関名] 株式会社横須賀テレコムリサーチパーク

項目	評価 ランク	所見	再評価 ランク	再所見
総合所見	A	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各サブテーマとともに全体として中間目標を達成しており、研究開発アーキテクチャに基づく量産版ハードウェアを一次試作として開発している。 知的財産形成の取り組みは精力的に実施されており、多くの報道発表から社会の関心も極めて高いことが伺える。 サブテーマ1, 2, 3とも実用化を念頭においた研究開発項目であり、開発された技術は複数の事業で運用されている。 <p>また、ユビキタス情報サービスへの汎用コミュニケーション端末技術の導入が、国内のみならず台湾台北市●●●●でも確定しており、海外展開についても期待できる。さらに、国際標準に関する取り組みに関してもITU-T, ISOに対して日本のプレゼンスをアピールする取り組みもなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユビキタスコンピューティング環境の実現を目的として、基盤ハードウェアアーキテクチャ、ソフトウェア、通信プロトコルのブレークスルーを達成する日本発信型の研究成果が示されている。また、産業界で製品化に着手できる対応がなされており、市場へのアピールを通じて国際競争力を維持する足固めができています。 研究代表者および研究分担者の研究実績も数多く挙げられており、本研究開発を推進するうえで妥当な研究体制であり、研究成果とともに人材育成への高い貢献度が期待される。 すべてのテーマに関して、今回も、目標よりもすぐれた成果を達成しているとともに、外部状況の変化への適切で迅速な対応を行っていることが大きく評価できる。事業推進および社会への本事業の貢献と還元という観点からも、オープンソースにすべき部分とクローズドにすべき部分を戦略的に分析し、実施していると判断する。さらに、すでに、我が国最大の課題である国際的競争力の向上という観点からは、海外企業とのアライアンスを軸に、戦略的な対応と活動が展開されており、高く評価することができる。 	-	(技術)
		<p>(事業化)</p> <p>提案製品は、広く普及している携帯電話端末にRFID R/Wを実装し新たなサービスの提供を目指すもので波及効果が高い。この実現のために、国内外の主要な事業者との間で製品のアーキテクチャとその実装先となる端末のプラットフォームとの整合を図るとともに、提案・プロモーション活動を実施している事業化プロセスと事業化体制は優れている。また、ほとんどの開発が委託研究期間の間に完了し、委託研究終了後も利益の中から自己資金で開発費をまかなうことが可能となっているため、事業化計画は妥当である。売上高は主要な携帯電話メーカーとの提携の成否によるが、現在、●●●社と提携を進めており、これが達成されると目標の売上を達成できる可能性があるため、収益の期待度は妥当である。ただし、現在までの特許取得件数は目標に達していないため、知的財産の取得に一層の努力が必要である。</p> <p>さらに、売上高の向上を図るため、次の点に期待する。</p> <p>汎用コミュニケーション端末をユーザーテクノロジー(株)が製造・販売を行うことになっているが、マルチプロトコルR/W機能を有効に利用するには、このようなPDA相当の情報処理機能を持った端末へのマルチプロトコルR/W機能の実装が有効である。なお、現在、iPhoneやAndroid端末の提供など、モバイル情報端末の進歩も著しいため、携帯電話端末と同様、これらのメーカーにライセンスを提供し、主要な市販のPDAやモバイルPC、スマートフォンなどにもマルチプロトコルRFID R/Wがサポートされることを期待する。</p> <p>ライセンス販売では、製品の実現に必要な特許をどこまで抑えているかが、製品の販売価格とシェアに影響すると考える。このため、製品の実現に必要な知的財産を幅広く取得されることを期待する。</p>	-	(事業化)

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しております。